
悠理ちゃんの災難

鷹嶺綺羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悠理ちゃんの災難

【Nコード】

N2979B

【作者名】

鷹嶺綺羅

【あらすじ】

「僕たちの甘くせつないミッション」で女装することになった悠理君。愛する宝条君が大暴走！「僕たちの甘くせつないミッション」と「お嬢様達のナイトメア」をつなぐ超秘話を公開！なお、時間設定等、あくまでいい加減です。だから、あくまで超アナザーストーリー扱い。シーズの正史としては扱われないことを予めご了承下さい。念のため。

(前書き)

念のため申し上げておきますが、水瀬悠理は男の子です。

アイドルが多数通うことで知られる明光学園。
当然、女子生徒は美少女ぞろいで知られているのだが……。
異常なことに、それほどの学園で、女装した水瀬の存在は、決して女子生徒達に引けをとらないどころか、むしろ凌駕していたわけ
で……。

その証拠に

「ほら、来たぜ？」

廊下を歩いていた宝条に、横を歩いていたクラスメートが言った。

「A組の水瀬だ」

宝条は、瞬間、心臓の高鳴りを感じた。

無意識に目が辺りを探す。

いた。

銀の細工のような艶やかな髪を持つ少女（宝条主観による）

僕にとつての理想の、そして、最愛の少女（妄想）

あの時の唇の柔らかさを、今でも忘れられない。

「すっげーよな」驚きを隠せないという声でクラスメートが言う。

「瀬戸綾乃越えてるぜ？」

「ああ……冗談みたいだよ……なあ、……おい？おい、宝条？」

ああ……

あの時みた、あの未熟な脹らみ（煩惱モード突入）

あの笑顔

「おい、宝条？大丈夫か？」

僕は、また、出会うことが出来た。

それが、何よりうれしい。

「おい。宝条？どうした？凍り付いて」

ああ。彼女がこっちを向いてくれた。

笑顔になってくれた。

な、なんて愛らしい笑顔なんだろう（超煩惱モードへヒートアップ）

やっぱり、君は女の子だったんだ！！

ああ……そうだ！君が男の子だなんて、あれは何かの悪い冗談だったんだね？

神様、ありがとうございます！

僕は、僕は、あの笑顔を手に入れるためなら……。

警告…宝条瞬、理性のタガが飛びました。

「あれ？宝条君？」

近寄ってきた水瀬が声をかけたが反応はない。

「……やっぱり、ヘンだよねえ」

スカートの端をつまみ、ため息をつく水瀬の仕草は、周囲の男子生徒の注目の的だ。

気づかないのは本人だけ。

「どうしたの？宝条君ったら」

水瀬に上目遣いにじっ。と見つめられた宝条は、不意に水瀬の手をとって半ば叫ぶように言った。

「結婚してください!!」

沈黙が周囲を支配した。

「……はい？」

水瀬のその聞き返した言葉がまずかったのかもしれない。

宝条の耳には、そのままYESと聞こえていた。

「あ、ありがとう!!悠理!!」

感極まったという表情の宝条は、突然悠理を抱きしめると、そのまま熱い唇を交わした。

「んっ!!んっ!!んっ!!」

じたばた水瀬も暴れるが、なぜか逃げるできない。

3分後

呆然とする周囲を後目に、ようやく唇を離した宝条に、水瀬は半泣きになって言った。

「グスッ……ほ、宝条君、いつ、いったいどうしちゃったの!？」

「君を愛しているだけだよ」

「あ、あのね? ぼ、ぼく」

「それ以上、いわなくてもいい」

「え? え、でもね?」

「さあ。痛いのは初めての時だけ。責任はとるから!」

「え? ほ、宝条君? いきなり走り出して、どこへ!？」

「楽しいところさ! 二人の初めての記念日を迎えよう!」

「っていうか離して! だっこしなくても僕、歩けるからあ!」

「ふふっ。恥ずかしがり屋だね。悠理は」

「……で?」

放課後、羽山から経緯を聞いた美奈子は、あきれながら尋ねた。

「男子生徒の唇を奪った挙句、宝条君がとった行動は?」

「水瀬を抱きかかえるとそのまま体育用具室に駆け込もうとした」

「……私、ヤオイには興味ないから」

「うそだあ」

「未亜、黙れ」

「うーっ。本棚のカバーかかった本、全部ヤオイなのにい」

「桜井、意外だったな」

「うるさいっ! それから宝条君どうなったの?」

「さすがに周囲が止めに入ってたな。宝条、かなり妄想にイッてい

たけど、まあ、少なくとも、水瀬のオケツの貞操は無事だったということだ」

「宝条君も大変だ」

「大変なのは、瀬戸さんもだろう？」

「……あ」

思い出したように美奈子が振り向いた先には、いびつな顔をして考え込む綾乃の姿があった。

相手はオトコ。

悠理君も当然、オトコの子。

オトコの子同士のキス。

これが浮気なのか。

それとも単なる事故なのか。

さすがに綾乃も、最後まで答えが出せずじまいだったという。

●水瀬悠理

お昼休み、萌子ちゃんの所へ行く。

理由は簡単。

お金を借りにだ。

僕が女装して登校することを知ったお父さんは、僕を勘当した挙句、こっちの家からまで追い出してくれた。

こういうとき、頼みになるはずのルシフェルは仕事で出たまま。

お母さんは「写真を送れ」としか言ってこない。

血を分けた関係で、あと、頼りになるのは萌子ちゃんだけ……。

●加納萌子

お兄ちゃんが女子生徒の着替えを覗き見たとかで女装して登下校しているという。

見てみたいけど、でも見ない。

お兄ちゃんは仕事の時に見せる凛々しい顔だけしていればいい。

お兄ちゃんは女装なんて……めっちゃ×2似合うけど、似合わない。一番似合うのは、プロテクトアーマー姿だ。

……フェイスガードやヘルメットで顔、見えないけど。

二番目の軍服姿、がいいかな？

とにかく、私はお兄ちゃんと極力顔をあわせないようにしていたのに、よりによって向こうから来るとは思っても見なかった。

中等部に入ってきたお兄ちゃん。

すごい。

全員、注目の的。

周囲の空気が違って見えたからびっくり。

さすがに遙香様の子。

私も見とれずにはいられない。

かわいすぎる。

っていうか、お兄ちゃん、やりすぎ。

周囲の子達、男子も女子もケータイでこっそり撮影してるし。

カメ小（カメラ小僧）なんて、堂々とフラッシュ焚いて大きいカメラ使って撮影してる。

ここは撮影会場か？

「と、とにかく、こっち」

お兄ちゃんがここに来た理由ははっきりしている。
お父さんからは、そのために、お金、預かっているから。
こんなところでお金の受け渡しはするべきじゃない。
だから、中庭に連れて行ったんだけど。

「あ、あのね？」

「お兄ちゃん」は情けなさで恥ずかしさでモジモジしながら言った。

…似合う。

似合いすぎる。

お兄ちゃん、女装が過ぎて、心まで女の子になっちゃったんじゃないかな。これ。

もうだめ。

ここまで似合うと、逆に……。

私は、言われる前にお金の入った封筒をお兄ちゃんに突きつけてから……。

[illegible]

指をさして大爆笑した。

だって！

大好きで格好いいお兄ちゃんがこんな格好してるなんて！
もう、笑う以外、どうすればいいの！？

まあ。

私も酸欠で気絶するまで自分が笑えるなんて思いもしなかったけど。

(後書き)

萌子って誰?という方、念のため申し上げておきます。綾乃の天敵、水瀬の腹違いの妹です。

詳しくは「美奈子ちゃんの憂鬱」収録「銃と中学生と小姑と」(http://plaza.rakuten.co.jp/ayano_minase/diary/200603120001/)をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2979b/>

悠理ちゃんの災難

2010年10月9日03時04分発行